

# 「友情」



宗教部長  
佐々木 哲夫

**友情**は、心底を打ち明けて語り合う相互理解であり、孤独地獄を消し去るもの、また、利害を異にするのではなく平等な間柄において成立するもの、との説明が書物に記されてきました。確かにそのとおりです。とすれば、ダビデとヨナタンの友情は例外的です。なぜなら、王子ヨナタンは、少なくとも五人の兄弟

ヨナタンはダビデを自分自身のように愛し、彼と契約を結び、着ていた上着を脱いで与え、また自分の装束を剣、弓、帯に至るまで与えた。

(サムエル記上二八章三〜四節)

姉妹の長子であり、父サウル王の良き相談相手であり、軍の指揮官として兵士たちから絶大な信頼を得ていた人物だからです。賑やかな環境においても孤独は存在します。しかし、王国と住民の平和のために侵略者と戦うヨナタンに孤独という閑居を楽しむ余裕はなかったのです。他方、従者ダビデは、ヨナタンと違い、身分の低い貧しい者でした。実に、友情の生じ得ない状況と思われるかもしれません。しかし、ダビデとヨナタンの間に友情が成立しました。そこには、わたしたちが見過ごすことのできない重要な要素があります。

再度、ヨナタンとダビデが最初に出会った場面に注目してみます。「ヨナタンはダビデを自分自身のように愛し、

彼と契約を結び…」と記されています。注目したい表現は「契約を結び」です。動詞の「結び」は直訳するならば「切る」です。契約を結ぶ際の犠牲を切り分ける行為に由来しての表現ですが、当該箇所にもそのような儀式は明示されていません。むしろ、「契約を結ぶ」の内包的意味、すなわち、ダビデとヨナタンの友情が主のみ前において真実なものであるとの意味が意図されています。彼らの友情は、揺るぐことのない約束として生涯にわたり保持されたのです。

東北学院大学のキャンパスでは、礼拝が行われ、聖書が講義されています。ダビデとヨナタンと同じ本質の友情が育まれる場所です。

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

# 大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2009年  
春季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS

第109号

# 「自由になった後で」



聖学院大学  
総合研究所教授  
深井 智朗

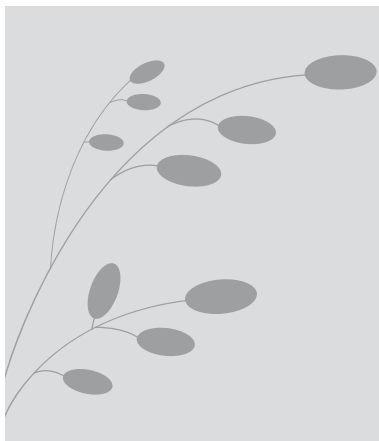
たのです。せっかく手にした自由を使いこなせなくて、何と自由を捨てようとするのです。その時パウロの言葉が現代的な意義をもって私たちに語りかけてきます。「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながられてはならない」(ガラテヤ五：1)。

ならないのです。それが十戒だったので。大事なことは自由の訓練をよく受けて、自由だからこそ、責任判断ができることです。自由だからこそ、自由を悪用するのではなく、自由を善のために、よく用いることができるということです。

みなさんはこの先、さらに自由な社会に出て行きます。その自由な社会で与えられた自由を使いこなす準備はできているでしょうか。自由をよく使うための基準を身につける訓練が必要です。東北学院大学にはその訓練の場があるのです。それが礼拝です。キリスト教や聖書についての学びです。それはみなさんが専門的な学問を学ぶことと合わせて、みなさんが社会で生きて行くためにぜひとも必要な自由の訓練なのです。よき訓練を受けて、与えられた自由を「肉の欲望の働く機会としないので、愛をもって互いに仕えることができるように」(ガラテヤ五：13) なっていただきたいと思えます。

**新** 入生、とりわけ女子の学生が五月頃になると必ず言う言葉があります。「ああ高校に戻りたい。」その理由を尋ねますと、これまた必ず同じ答えが返ってきます。それは「制服があるから」というのです。制服は不自由な高校生活のシンボルです。大学に入学して、自由に、毎日好きな服を着てよいはずなのです。ところが、彼女たちは、さあ好きなように洋服を選んでいいよ、と言われたのですが、その自由を使いこなすことができません、その自由を放棄して、不自由な、規則だらけの高校に逆戻りしたいと思ったのです。

現代は自由な世界ですが、実は自由になるだけではだめなのです。問題は自由になった後で、その自由をどのように使いこなせるかということなのです。キリスト教という宗教は何千年も前から、自由になるだけではなく、自由を使いこなすということ、自由の訓練ということの大切さを知っている宗教でした。有名な十戒は、実はイスラエルが奴隷であったエジプトから解放されて、自由になった直後に与えられたものでした。それはおかしなことだと感じるかもしれませんが。せっかく自由になったのに、また規則か、と思われるかもしれません。しかし自由になったからこそ、今度は責任的な判断が求められるようになるのです。自由になればなるほど、判断に責任を求められるのです。自由だからこそ判断のためのよい基準を身につけなければ



## ◆深井智朗 先生

一九六四(昭和三九)年生まれ。一九八九(平成二)年東京神学大学院修士課程修了。一九九六(平成八)年アウクスブルク大学哲学・社会学部博士課程修了。二〇〇〇(平成一二)年日本基督教団滝野川教会主任牧師に就任、二〇〇七(平成一九)年聖学院大学総合研究所教授に就任し、現在に至る。

深井先生には、五月三日(水)に泉キャンパス、一四日(木)に土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。

## 「主イエスを迎える人生」 ルカによる福音書 19章1-10節



日本基督教団  
東京教会 牧師  
**高橋 潤**

の権力を傘に好きだけ税金を徴収することが出来たのです。すなわち、ザアカイは、ユダヤ人でありながらローマ皇帝のために同胞から税金と称して平気で暴利をむさぼっていたのです。そのためにザアカイは、人々から信頼も尊敬もされることなく遠ざけられていたのです。こうしてザアカイは外からの闇にも覆われていま

し。ザアカイは、「背が低かった」とあります。彼が徴税人になるきっかけは、背が低かったことと関係しているかもしれません。背の高い人に対抗するために、徴税人の強さを求めたとしてもうなずけます。いずれにしても、ザアカイは、外なる闇による疎外感、孤独、不安に負けない頑なさをも身につけていたが、内なる闇を克服することは出来なかつたのです。

エリコの町に入った主イエスは、ザアカイが登ったいちじく桑の木の下で立ち止まりました。主イエスは、はじめからザアカイを捜していたようにして立ち止まったのです。私たちは、主イエスと私とは関係ないと思いがちです。しかし、主イエスは、ザアカイを捜し出したように、私たちを捜しておられるのです。そして、今日、聖書を通して、皆さんの名前を呼んでおられるのです。主イエスは、私たちを救い出すために、私たちに向かって歩いて来られるのです。主イエスは、ザアカイの内なる闇、すなわちザアカイの罪を引き取って下さったのです。ザアカイの喜びの背後に主イエスの喜びがあるのです。

聖書が問題にする罪とは、法律的な犯罪や道徳的な罪ではなく自分自身を神として振る舞う自己中心的エゴという罪です。主イエスは、ご自身の命を犠牲にしてまでも私たちの内なる闇、すなわち罪と戦って下さるお方です。この主イエスの言葉によって、ザアカイは八節に書かれているように使命を与えられました。使命を与えられたザアカイは、富、地位、名誉の問題で闇に戻ることはなくなつたに違いありません。

人生とはどんなに輝かしく見えても、闇が潜んでいるものです。ルカによる福音書に登場するザアカイは「失われたもの」と表現されています。人生の闇をもつ人間を、主イエスは神から失われていると見て、哀れんでおられるのです。

現代に生きる私たちも「失われたもの」の一人ではないでしょうか。主イエスは私たち失われた者を「捜して救うために来た」と記されています。

ザアカイがどうして主イエスを見ようと思ったのでしょうか。どうして、木に登つてまで主イエスに近寄ろうとしたのでしょうか。それはザアカイが外なる闇には耐えられても、ザアカイの心の底に根付いている内なる闇には耐えきれなかつたからではないでしょうか。木に登つたザアカイは、自分を遮った群衆を出し抜く小賢みさと群衆と主イエスを見下げる傲慢さによって、外なる闇は見事に払いのけました。しかし、主イエスの声を聴いた時、内なる闇に耐え

られなくなつたのではないのでしょうか。なぜなら、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」と今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」という言葉に対して心を閉ざしたままでいることが出来なかつたのです。主イエスの言葉は、ザアカイの内なる闇を照らす力となつて臨んだのです。ザアカイは、主の言葉に喜んでしまつたのです。心を開いたら、傷つくかもしれないのに、恥をかくかもしれないのに、喜んで主イエスを迎えたのです。

私たちは十字架の主イエスの言葉によって、エゴという内なる闇を克服していただき、その代わりに生きる使命を与えられるのです。皆さんが主イエスの言葉を心に蓄え、使命を与えられて主イエスと共に歩んで欲しいと願います。

ザアカイは、エリコの町の徴税人の頭でした。エリコとは、「月の町」という意味で、パレスチナ最古の町であり交通の要所として主イエスの時代繁栄していました。当時の徴税人の頭とは、現在の税務署の署長とは全く違います。当時のエリコを含むユダヤは、ローマ帝国の支配下に置かれていました。ザアカイはローマ帝国からエリコの徴税権を競り落とし、あとはローマ帝国

の権力を傘に好きだけ税金を徴収することが出来たのです。すなわち、ザアカイは、ユダヤ人でありながらローマ皇帝のために同胞から税金と称して平気で暴利をむさぼっていたのです。そのためにザアカイは、人々から信頼も尊敬もされることなく遠ざけられていたのです。こうしてザアカイは外からの闇にも覆われていま

し。ザアカイは、「背が低かった」とあります。彼が徴税人になるきっかけは、背が低かったことと関係しているかもしれません。背の高い人に対抗するために、徴税人の強さを求めたとしてもうなずけます。いずれにしても、ザアカイは、外なる闇による疎外感、孤独、不安に負けない頑なさをも身につけていたが、内なる闇を克服することは出来なかつたのです。

エリコの町に入った主イエスは、ザアカイが登ったいちじく桑の木の下で立ち止まりました。主イエスは、はじめからザアカイを捜していたようにして立ち止まったのです。私たちは、主イエスと私とは関係ないと思いがちです。しかし、主イエスは、ザアカイを捜し出したように、私たちを捜しておられるのです。そして、今日、聖書を通して、皆さんの名前を呼んでおられるのです。主イエスは、私たちを救い出すために、私たちに向かって歩いて来られるのです。主イエスは、ザアカイの内なる闇、すなわちザアカイの罪を引き取って下さったのです。ザアカイの喜びの背後に主イエスの喜びがあるのです。

### ◆高橋 潤 先生

一九五八(昭和三三)年生まれ。  
一九八七(昭和六二)年東京神学  
大学大学院博士課程前期修了。日  
本基督教団静岡教会、蒲原教会を  
経て一九九六年(平成八)年中京  
教会牧師に就任し現在に至る。二  
〇〇九(平成二二)年四月より名  
古屋学院院長。  
高橋先生には五月一三日(水)  
に多賀城キャンパス、土樋キャンパ  
ス(夜)の礼拝をご担当いただき  
ました。

# 各キャンパスのメッセージ

*Izumi*

泉キャンパス  
大学宗教主任

永井 義之



入学時に渡されたいろんな資料の中に「キリスト教活動のハンドブックQ&A」というA4判のパンフレットがあり、そのQ3に、「大学礼拝はどのように行われるのですか」という項があります。礼拝にも慣れてきたと思われるこの頃ですので、あらためて再確認をしてみましょう。

まず、前奏で礼拝が始まりますので入場してるときは友人同士で話しながらではなく静かに入場しましょう。讃美歌はオルガンによって曲が演奏されますから、よく知らない曲も讃美歌を手にとって歌ってみてください。

礼拝の終わりで頌栄の讃美歌の後、黙祷の時間がありますが短い時間でするので終わるまで動き出さないでください。ここまでで次の講義開始まで七分八分となるように終えるよう宗教部としても考えていますので、ご協力ください。

*Taqazyo*

多賀城キャンパス  
大学宗教主任

野村 信



この四月の多賀城キャンパスの桜は見事でした。柔らかな春の風に包まれて、どの花もその美しさを存分に示そうとしているかのように咲きほころんでいました。皆様に、楽しんでいただきたいと思います。文芸評論家の小林秀雄の桜好きは有名でしたが、「当麻（たえま）」（一九四二年）という随筆の中で、「美しい花がある。花の美しさという様なものはない」という名言を残しています。つまり、花がその瞬間に開花してその美を示すように、それを鑑賞する人も、その瞬間に存分に楽しむべきであると言おうとしていると思えます。いずれにしても、そこにはじっくりと見て、味わい、楽しむ喜びがあります。普段から身の回りのものを新たな目で、深く見つめる。大学生生活でこそ出来る楽しい取り組みではないかと思えます。なお、宗教部では聖書の学びを今年も行っています。関心のある人は、月曜日か火曜日のお昼休みに礼拝堂の一階に来てください。

*Touchitoi*

土樋キャンパス  
大学宗教主任

北 博



三年生に進級して泉キャンパスから土樋キャンパスに移られた学生諸君、土樋はもう慣れましたか。今年度は授業時間も変更されたので、気持ちの切り替えにまだ戸惑っている人もいることでしょう。早く慣れてください。礼拝のマナーは、大分よくなってきました。

ところで、八月上旬に恒例の宗教部主催「サマー・カレッジ」が行われます。今年のテーマは「働くということ」です。今年は宮城蔵王のホテルで、二泊三日で行ないます。二日目には、ソフトボール大会もあります。東北学院大学の学生ならば、誰でも参加できます。早目に申し込んで下さい。各「聖書研究会」については、関心のある人はそれぞれの会を主催する先生に問い合せて下さい。それは、待っています！

## ◆サマー・カレッジ案内

豊かな自然の中で聖書のメッセージに学びながら学生・教職員相互の交わりを深める宗教部主催による恒例のサマー・カレッジは「宮城蔵王ロイヤルホテル」を会場に行ないます。今年度も以下のようなプログラムを用意していますので、皆様ふるってご参加ください。

- 日時  
八月四日（火）～六日（木）
- 会場  
宮城蔵王ロイヤルホテル
- 主なプログラム  
開会礼拝、主題講演、グループ討議  
ソフトボール、音楽と黙想、閉会礼拝
- 対象  
本学の学生・教職員
- 参加費  
八〇〇〇円
- 締切日  
七月二十五日（土）
- お早めにお申し込み下さい。  
申し込み先  
土樋キャンパス…本館二階宗教事務課  
泉キャンパス…一号館二階庶務係  
多賀城キャンパス…一号館二階庶務係  
(参加費を添えてお申し込み下さい。)

## 編集後記

春季特別伝道礼拝の特集号です。大勢の学生諸君が聞きに来てくれうれしく思っています。都合で聞けなかった諸君は紙面で講師の語られたことをお読みください。また、他のキャンパスで別の講師の語られたものもその要旨が掲載されていますのであわせてお読みください。(NA)

二〇〇九年六月 東北学院大学宗教部  
〒九八〇一八五二  
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号